

令和7年度

〇〇学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得及び活用の力の向上を図る。
- ②個・集団に応じた指導方法を工夫し、学力向上をめざし、授業改善を行う。
- ③読書環境を整え、本を活用できるよう手助けし、単語力・読解力を高める。
- ④家庭と連携して、自主的・計画的な家庭学習の習慣を定着させる。

校長

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や、学期に1回ふれあい授業参観を実施するなど、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な課題に、生徒1人1人が自分のペースで取り組むことができる。 ●繰り返し学習や、暗記を苦手とし、基礎的・基本的な知識の習得が十分でない生徒が見受けられる。	・生活記録、課題学習等を書く。授業中のノートをしっかり書くことで、継続的な取組及び基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。 ・課題学習 1年キュビナとあわスタ 2年キュビナとセミナー 3年キュビナ	①個に応じた授業形態や、ICTを活用した指導方法の工夫・改善を図り、分かり易い授業を展開する。 ②家庭学習につながる宿題の質と量、及び提示の仕方を研究し、実践する。 ③メディアコントロールを意識させ、調査の機会を設定し、結果を生徒に返す。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習活動の発表や学校行事など表現の場において、自分たちで意見を出し合い、積極的に取り組む。 ●授業や各活動に対する集中力や理解力に格差が見られる。TPOに応じた適切な表現が難しい生徒がいる。	・話をしっかりと聴くことができ、自分の意見や考えを整理し、TPOに応じた伝え方を考え、相手に分かり易く発表及び説明をすることができる。	①班やペア活動などを通して、自分の意見を整理したり、意見交換をしたりして、学びを共有する機会を増やす。 ②授業や学校行事の中で、発言・発表できる場を設定し、TPOに応じた表現の仕方を学ばせるとともに、聴く態度を育てる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目な態度で授業に取り組める。宿題や課題については、多くの生徒が真面目に取り組む。 ●宿題や与えられた課題のみの取組で満足してしまう生徒が多く、日常的には、家庭学習は不十分である。	・将来の夢や目標を持ち、その達成に向けて、根気強く自ら学び続けることができる。 ・なぜ学ぶのか、今の学習が将来どのように役立つのか気づき、日頃の学習の改善に繋げることができる。	①より良い取組が望む結果につながり、自己有用感が高まるように、学習計画を作成・実践し、子ども自身に目標や工夫する点を考えさせ、目標の達成度を評価し、見直すサイクルを確立させる。 ②家庭や地域と連携し、キャリア教育の充実を図ることで学ぶ意欲の向上を図る。			